

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	中村俊佑	学校名	東京都立 五日市高等学校
担当教科等	英語科	対象学年（人数）	2年B組(31名)
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年12月11日（水）（第1時限：8:50～9:40）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 外国語（英語）・国際理解教育		
2. 単元(活動)名：以下の項目の一部をカバーしている。 Lesson 4 Goal Setting 目標達成 Lesson 10 Ban Shigeru, Architect of Paper 世界で活躍する日本人 Lesson 11 Win for One Nation スポーツが世界を平和に Lesson 12 From Small Factories to the World 海外に進出する日本の技術		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ： 「他人事」から「自分事」にする国際協力 ～None of my businessからMake it Yoursへ～ 単元目標： ・生徒の身の回りにはどんな課題があるのかをSDGsの観点から、見直すことで課題を再発見し、個人の行動変容につなげ、積極的に社会と関わろうとする態度を養う。 ・グローバル化の進展により、一見自分たちとは無関係と思えることも関連付けて考えていくことが必要になってきていることに、ザンビアと日本のつながりなどを事例にして考える。 ・英語という言語が使用されているザンビアの社会背景を知り、英語が人々のコミュニケーションの手段であることを認識することで、英語を学ぶ意味を再確認する。 関連する学習指導要領上の目標： 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすこと。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	A. 英語での簡単な指示を理解し、正しく応答できる。 B. 英語での素材を見て、概要を理解することができる。
	②思考力、判断力、 表現力等	A. 写真などの視聴覚教材を見て、必要な情報を的確に理解し、相手に伝えることができる。 B. 問題を的確に把握し、自ら問いを設定し、分析することを通して、主体的に考え、表現することができる。
	③学びに向かう力、 人間性等	A. 他者と協力して、学習に取り組むことにより、自分にはなかった視点に気づき、学びをより深めることができる。 B. 学んだことを用いて、自分にできることを考え、行動に移すことができる。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】</p> <p>2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、2030年の世界の姿をあらわした目標の集まりである。Lesson4の“Goal Setting”という単元では、目標達成のために必要なこととして、“Another important point is to plan “backward” from your future goal to the present.”という一節が書かれている。つまり、ここでの未来の目標は2030年であるが、そこから逆算して、今の世界を見ることが重要であるということである。「未来の目線で今を見る」というのがSDGsの手法であり、SDGsの視点で世界の諸問題から、我々の身の回りの課題にまで目を向け、今自分たちにできることを考え、行動に移していくことができるようにすることが大切であると考え、この単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>SDGsの認知度について、2学年生徒全員に調査したところ、その認知度は7%と低い結果となった。しかし、SDGsは、地球上にある豊かな自然や資源を未来に残し、誰一人取り残すことなく幸せに暮らせる世界を目指す国際プロジェクトであり、現在、企業、NPO、教育者、専門家、クリエイターなど幅広い分野で取り入れられている概念である。本校では現在、体系的に国際理解教育を十分にできていない現状であることを踏まえ、国際理解教育の授業実践として本単元を設定した。</p> <p>【生徒観】</p> <p>英語には入学当初から苦手意識を持つ生徒が多い。集中力が続かない生徒も多いが、明るく元気で、発言なども積極的に行ったり、面倒見の良い生徒も多く、お互い教えあい、高めあうことができるという点では授業を進行しやすいクラスである。</p> <p>【指導観】</p> <p>生徒にとって身近な話題を題材にしながら、視聴覚教材を多く取り入れ、ペアワークやグループワークなど、多様な学習形態を取り入れながら、英語に対する興味関心を持てるように工夫をする。</p>
--	---

6. 単元計画（全3時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	<p>①国際理解とは？ ②日本の国際協力とは？ ③SDGsとは何か？ ④SDGs 英語版と日本語版の比較 ⑤SDGs 達成度と重要度について</p>	<p>①他人事から自分事にして考えることが国際理解の第一歩であることが翻字の目的であることを伝える。 ②JICA や ODA など、日本の国際協力に関する理解を深める。 ③・④ SDGs とは何かについて概略を知り、17 の目標について知る。 ⑤SDGs を「自分事」にして考えるために、身近な課題について話し合う。</p>	<p>①None of my business. と Make it Yours の意味を考えさせる。 ② SDGs の頭文字は何を示すか英語で考えさせる。その後、Sustainable Development Goals について言及し、意味を理解させる。また、映像資料を活用し、SDGs についてのイメージを膨らませる。【一斉】 ③英語版 SDGs と日本語版をマッチングさせる活動を通して、17 の目標について知る。【ペア】 ④SDGs の 17 の目標について、次の 4 項目について考える。「(1) 日本が達成できていない項目 (2) 五都市高校が達成できていないと思う項目 (3) (2)を達成するために自分にできること (4) SDGs17 の目標のなかで最も大切だと思う 3 つの項目 」について、個人で考えたことをグループでシェアし、1 つの模造紙にまとめ、発表できるようにする。【グループ】</p>	<p>② 映像資料 You-tube (<a href="https://www.youtube.com/watch?v=H5l9RHeATl0">https://www.youtube.com/watch?v=H5l9RHeATl0</a>) ③SDG のロゴカード(カラーコピーをそれぞれ切ったもの)・糊・模造紙・ペン</p>

2 本時	①SDGs の復習 ②SDGs の達成度について ③ザンビアと日本との関係 ④ザンビアを SDGs の観点から見直してみる。	①授業の目的の確認と日本の国際協力について復習する。 ②他のグループの発表を聞いて、新たな視点を得る。 ③ザンビアと日本のつながりやザンビアの課題などをSDGs の観点から見直す。	① SDGs, JICA など日本の国際協力を考える上で必要なキーワードを復習する。 ②1 時限で話し合ったことをもとに、4 項目についてまとめたことを発表する。 ③ザンビアの銅や日本車が多く輸出され利用されている例などを挙げながら、ザンビアを自分事として捉えられるようにする。 ④ザンビアの写真を 3 枚程度用意し、グループでシェアする。(1)何の写真である(WHAT&HOW)、(2) SDGs のどの項目に関連する写真であるか、(3) 日本との相違点・共通点について各自で考えさせる。その後、グループに戻り、お互いの感想をシェアする。	②模造紙・ペン ④パウチした写真・ワークシート
3	①前時の復習 ②SDGs マイプロジェクト ③まとめと振り返り	①ザンビアの課題や日本とのつながりについて理解を深める。 ②日本の国際協力を知ったうえで、「自分にできること」を SDGs の観点から見直し、マイプロジェクトを計画する。 ③振り返り	① 前回の生徒発表をもとに、スライドなどで写真・動画等を提示しながら、ザンビアについての理解を深める。 ② SDGs マイプロジェクトを計画する。 ③ ワークシートへの記入を行いながら、これまでの授業の振り返りを行う。	③ワークシート

7. 本時の展開（2時間目） 本時のねらい： ①SDGs の理念を知り、その観点から身の回りの生活を見直すことで、身の回りの課題について「自分事」として捉え、自分にできることを主体的に考える。 ②ザンビアと日本のつながりについて知るとともに、写真などの素材から必要な情報を読み取り、国際的な視野で問題発見ができるようになる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	① この3回の授業の目的(「他人事」ではなく、「自分事」として国際協力について考える)について再確認する。さらに、アンケート結果を提示し、「平和」「平等」などといったキーワードが上がっていることに言及する。【一斉】 ② 「あなたが幸せだと思うときは？」のアンケート結果を見せ、「友達」「ご飯」「生活」「好き」といったキーワードが入っていることに言及する。 ③ SDGs, JICA など日本の国際協力を考える上で必要なキーワードを復習する。【一斉】	①②PPT で頭文字を提示するなどの補助を行う。必要に応じてヒントを提示する。 ③ SDGs にはなぜ「s」がついているのかについても気づかせ、17 の目標があることを復習するような発問を行う。	① PPT・ワークシート

	<p>④ Lesson4の Goal Settings のフレーズである Another important point is to plan “backward” from your future goal to the present.を思い出させる。目標達成には未来から現在に遡って考えることが重要であることを言及する。SDGs が 2030 年の世界の姿を示しており、未来に立って、今の世界を見ることが大事であることに言及する。</p> <p>⑤ SDGsの理念である “Leave no one behind” について【個人 (Think) →ペア(Pair)→全体シェア(Share)】で考える。「誰も置き去りにしない社会」が SDGs の目指す世界であることを確認する。</p>	<p>④教科書の復習をするとともに、SDGs との関連に言及する。</p>	<p>④教科書</p>
<p>展開 (35分)</p>	<p>⑥1 時限で話し合ったことをもとに、4 項目についてまとめたことを発表する。この際、SDGs は世界のことだけでなく、身の回りの日本でも実現できていない項目があることを言及する。</p> <p>⑦SDSN による SDGs 目標達成度を示し、生徒の想定と比較してみる。</p> <p>⑧ザンビアの概要を説明する。</p> <p>⑨ザンビアの写真を 3 枚(A, B, C)用意し、スライドで示す。以下の 3つの項目についてまず個人で思いついたことをメモする。その後、グループになり、(1)何の写真であるか (WHAT&amp;HOW)、(2)日本との相違点・共通点は何か、(3)SDGs のどの項目に関連する写真であるかをシェアし、リーダーがまとめる。その後、グループごとに発表者が全体にシェアする。</p>	<p>⑤ leave, behind など学んだ単語については単語ワークブックなどで確認させる。</p> <p>⑥(1)日本が達成できていない項目 (2)五日市高校が達成できていない項目(3)最も重要だと思う 3 項目 (4) 達成するためにあなたができることについて、模造紙を用いて発表させる。</p> <p>⑦生徒の発表資料を掲示しておき、SDSN による達成度指標と比較するよう促す。</p> <p>⑨タイムマネジメントをしっかりと行う。(個々人のシェア 1分×4、その後のまとめ時間 3 分) リーダー (Chairperson)とノート係、発表者などをあらかじめグループ内で決めさせておく。</p>	<p>⑤ MEW Core500 (い いずな書店)</p> <p>⑥模造紙・磁石など</p> <p>⑦開発ソリューションネットワーク (SDSN) <a href="https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2018/2018_sdg_index_and_dashboards_country_profiles.pdf">https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2018/2018_sdg_index_and_dashboards_country_profiles.pdf</a></p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>⑩それぞれの写真について簡単なコメントを行う。ザンビアの銅や日本車が多く輸出され利用されている例などを挙げながら、ザンビアを自分事として捉えられるようにする。</p> <p>⑪本時の授業で学んだことを振り返る。</p>	<p>⑩生徒が気づいた点や疑問点などに沿って、簡単な補足説明を行う。</p> <p>⑪ワークシートへの記入を行わせ、提出させる。</p>	<p>⑧PPT 資料</p> <p>⑨パウチした写真 3 枚・SDGs のロゴの入ったシート 1 枚を各グループに配布</p>

## 8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ① A. 教師の発問に対して、簡単な英語で応答できる。  
B. 写真に記載されている英語を読み、その概要を要約することができる。
- ② A. グループワークで、情報を読み取ろうと積極的に活動、発言している様子を評価する。  
B. ワークシートの記入などから、問いの設定・分析・自己の内省などができているかを判断する。
- ③ A. ペアワークやグループワークに積極的に取り組み、他者と協働して学びを深めているかを判断する。  
B. ワークシートの記入などから、主体的に取り組む姿勢を評価する。

## 9. 学習方法及び外部との連携

JICA 出前授業を実施し、ザンビア人との交流ワークショップを3月に企画している。英語が国際的な言語 (World Englishes) であることを認識させるとともに、異文化への関心・理解を深める機会とする。国際理解教育の一環として実施する。

## 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校の教育活動のなかに「国際理解教育」の視点を盛り込み、探求学習と併せて、SDGsの地域プロジェクトを実施していく予定である。11月に設立されたESS国際交流部ではSDGs11の「住み続けられる街づくり」の観点から五日市地域の活性化に努めている。地域活性化のために外国人観光客にターゲットを絞り、MAP、動画、メニュー作成などに地域の方々や商工会議所等と連携しながら取り組んでいる。また、東京都国際研究協議会において、本研究授業および取り組み実践例などを発表、生徒の研究発表への参加、研究紀要への掲載なども行っている。

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>当初、単元と関連させてどう授業を組み立てていけば良いのかということに悩んだ。そこで、思い切って、2 学期期末考査後の特別時間割のなかで、普段、少人数に分けて実施している英語の授業をペアの教員と相談の上、合同で実施した。</p> <p>Picture Description の活動のなかでは、当初、A～C 3 つの写真が何の写真であるのかを考えさせる活動を行ったが、より生徒にその写真のメッセージを「自分ごと」として捉えてもらうためには、活動前に視点を伝える必要があると感じた。具体的には、What (何についての写真であるか)・Where (どこで撮られた写真なのか)・Compare (日本との関わり・違いは何か?) という視点を伝えることで、日本との相違点のみならず、共通点もあるという気づきにつなげた。また、英語の授業での実施ということで教科との関連が問題となるが、SDGs のロゴの英語版やコンセプトの理解、活動の指示などを英語で行った。教科書の英文から関連する部分を抜き出して、SDGs に当てはめて考えてみるという試みも行った。本来であれば、ここでのグループ活動も英語で行うことが望ましいだろうが、十分な英語力がない段階では英語によるディスカッションという制約が「深い学び」を阻害してしまう要因となることが考えられたため、今回、グループワークでの使用言語は日本語で実施した。(英語が得意な子がいるグループでは、発表資料の作成で英語での記述にチャレンジした生徒もいた。)</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>開発途上国を「かわいそう」や「貧しい」などといった「支援」の対象である国という印象を、生徒が、「協力」や「自分ごと」という視点から考えていくには時間がかかることを感じた。「自分ごとにして考える国際協力」というテーマで授業を行い、SDGs の観点で身の回りのことを考えさせることはある程度はできたように感じる。しかし、そこから発展して、自分たちの外の世界の課題などに対して「自分ごと」にし、「行動」に移していく生徒を育てるには、どのような授業展開が可能かについて再検討が必要である。同世代の高校生が取り組んでいる事例など、「私にもできるかも」という感覚を持てるような実例を示していくことも必要である。と同時に、生徒が行ったことが開発途上国の人々などに届いて、その人達を笑顔にできたなどという実際に日本と開発途上国の人とをつなぐプロジェクトなどを行えると、より生徒が国際協力について、「自分ごと」と捉えていける可能性が出てくるのではないかと感じた。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>SDGs という切り口を生徒に提供することで、これまで以上に生徒が身の回りのことについて課題意識を持って、活動するようになった。特に、ESS 国際交流部では、SDGs の視点から、地域貢献に取り組みたいという生徒が出てきており、昨年 9 月から「地域の外国人おもてなしプロジェクト」に取り組み、地域飲食店のインタビューなどを行い、「外国人おもてなし英語 MAP」の作成や、地域 PR 動画を作成した。この活動が地域新聞でも紹介され、地域の方々から多くの協力を得られるプロジェクトに発展してきたことや東京都の研究大会で奨励賞を頂くなどの成果を挙げつつある。高齢化が進行しており、シャッター街となりつつある街を元気にし、地域の観光産業を地元の高校生と地域住民がパートナーシップを結ぶ (SDGs17) ことにより、持続可能な街づくり (SDGs11) につなげていく。</p>

	<p>今後も SDGs と本校での国際理解教育及び学校教育活動とつなげて以下のような試みを行っていく予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 沖縄修学旅行 SDGs フォトコンテスト</li> <li>② SDGs マイプロジェクト&amp;プレゼンコンテスト</li> <li>③ 「まちづくり」地域おもてなしプロジェクト</li> <li>④ JICA 出前授業で「問い」を作り、深い学びにつなげるワークショップ</li> <li>⑤ 国際理解教育委員会の運営、他教員との連携</li> <li>⑥ SDGs 探究学習×台湾修学旅行</li> <li>⑦ 探究×SDGs アワードへの応募</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>「振り返り」として、SDGs に関して、以下のことについて生徒に記述してもらった例を紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身近にある SDGs を見つけよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子生徒用ズボン SDGs5</li> <li>・エンカレッジスクール SDGs4</li> <li>☞不登校を経験している人でも再チャレンジできる場がある</li> <li>・食料廃棄 SDGs2</li> <li>☞バイト先で、作るのに失敗したもの・形がいびつなものは捨てていた。</li> <li>・保育所 SDGs5</li> <li>☞ 子供がいても働けるような環境に少しずつなっている</li> <li>・副業 SDGs8</li> <li>☞ 副業を認める企業が増えてきた</li> </ul> </li> <li>2. SDGs についての「問い」を作ろう <p><b>【17 という目標設定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ 17 しかないのか？もっと他のも出てくるのでは？</li> <li>・17 個を全部守れている国はあるのか？</li> <li>・目標設定が高い気がする。叶わないことを目標にするのもどうかと思った。そうなるように心がけているのかもなど。</li> <li>・SDGs は最初から 17 個だったのか？</li> </ul> <p><b>【SDGs の認知度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs を知っている人が少ない。知る場面を増やすことはできないのか？</li> <li>・海外での知名度と日本ではどちらの方が高いの？</li> <li>・本来国民全員が向き合うことだと思うのですが、このマークを目にするのはどこかの会社などが取り組んでいるという証明として使っているときばかりです。一般の社会の方々にはちゃんと知っているのでしょうか？</li> </ul> <p><b>【SDGs が作られた背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ SDGs が作られたの？</li> <li>・SDGs と MDGs の違いは何か？</li> <li>・絵は誰が考えたの？</li> <li>・2030 年になったら、SDGs はなくなるのか？</li> </ul> </li> </ol>

#### 【達成のための対策】

- ・口では言っているけど、実際行動に移せていない。もっと CM など呼びかけが必要。
- ・SDGs を達成するために、日本は何をしているのか。
- ・なぜ「気候変動に具体的な対策を」とか「陸の豊かさを守ろう」と言っているのに、新しい機械や新しいものを作っているのか？
- ・達成することが難しい課題をたくさん作って、どうやって解決していくのだろうか？
- ・1~17 まで全てできるようにしっかりと計画が立てられているのか？
- ・何が足りないのかが明確になっていたとしても、それを直す改善する策や最終的な目標がはっきり見えないのはどうなのか？

#### 【達成の難しさ】

- ・なぜ達成できていない項目があるのか？
- ・何が悪いかわかっているはずなのにしっかりした解決策を考えることができていないのかと疑問。
- ・本当に平和は訪れるのか？
- ・裕福な国は自分の国ばかりで貧しい国のことを考えているのか？
- ・2030 年までにあと 10 年しかない。今の状態のままじゃ達成できないと思う。
- ・クラスの中だけじゃなくて世界中で Not Yours buy Ours ができるようになった方が良いと思う。

#### 【自分たちにできること】

- ・自分たち学生が協力できることは何か。
- ・SDGs を達成するためのボランティアがあるか？

☞「問い」を作り、モヤモヤした状態で授業を終えた。あえて答えを言わずに生徒が「問い」を作ることから、調べ、考え、行動に移すことにつながっていくと考えたからだ。

#### 3. 生徒たちが考えた「自分たちにできること」

- ・飲みかけ・食べかけをしないで最後まで食べる
- ・ポイ捨てをしない。ポイ捨てをしている人がいたら注意する。
- ・積極的にゴミ拾いする。
- ・募金をする。
- ・命を大切にする。
- ・都会だけでなく、田舎にも交流をとる
- ・皿洗いするときにそのまま油を水道に流さない。
- ・地域ボランティアに参加する。
- ・リサイクルをする。
- ・買ったものは最後まで責任もって使う。
- ・電気をつけたまま寝ない。



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャワーを出しっぱなしにしない。</li> <li>・性別を理由にバカにしたりしない。</li> <li>・教育を受けられるのが当たり前と思わず、時間を大切にする。</li> <li>・差別をしない。理解する。</li> <li>・自分や周りの人のためにも、他の人の勉強の邪魔をしないようにする。</li> <li>・使ったものはきちんともとに戻し、確認した時にできていないものがあれば代わりにやる。</li> <li>・先生も気持ちよく授業ができて、生徒も気持ちよくできるために、黒板をきれいにする。</li> <li>・相手と協力して何かをやり遂げる。</li> <li>・18歳になったら、選挙に行き、自分で任せられる人を選ぶことが大切。</li> <li>・授業を真面目に受ける。</li> </ul> <p>☞授業前は、ポイ捨て・食べ残し・飲み残し、授業中の私語など、学校では多くの課題が見られた。この授業を通して、生徒が自分の身近な課題から見直し、ゴミを片づけたり、黒板をきれいにしたり、授業に集中できていない子に声をかけるなど、身近なところから課題を解決していこうという生徒が各クラス数名ずつ出てきて良い相乗効果を生んでいる。</p>
15. 授業者による自由記述	<p>教師海外派遣研修では、内容が濃く、自分の目の前の生徒に何を伝えていけば良いのかを授業直前まで悩んでしまった。結果として、実践授業では多くの内容を盛り込み過ぎてしまい、やや内容が消化不良の状態になってしまった気もしている。数多くある研修での経験のなかから、育てたい生徒像を思い浮かべ、伝えたい内容を精選していくことが重要であると感じた。また、本来、数時間の実践でこの国際理解教育が実現できるわけではない。日々の教科実践のなかに国際理解教育というスパイスを少しずつ加えていくことで、国際的な視野で物事を捉えられる生徒を育てていくことが可能になるのではないか。そのためには、3学年を通した国際理解教育のグランドデザインを作成し、生徒の発達段階に応じた、効果的な教科横断型のカリキュラム作成が重要である。他教科の教員とも連携しつつ、学校全体として国際理解教育に取り組んでいける体制づくりを構築していきたい。</p>

参考資料：

北村友人・佐藤真久・佐藤学（編著）（2019）.『SDGs時代の教育』学文社.

田中治彦・枝廣淳子・久保田崇（編著）（2019）.『SDGsとまちづくり』学文社.

佐藤真久（監修）（2019）.『未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK』宣伝会議.

Think the Earth（著）・蟹江憲史（監）（2018）.『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』紀伊國屋書店.

[https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2018/2018\\_sdg\\_index\\_and\\_dashboards\\_country\\_profiles.pdf](https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2018/2018_sdg_index_and_dashboards_country_profiles.pdf) \*開発ソリューションネットワーク(SDSN)が「世界のSDGs達成度ランキング」を発表している。

JICA 地球ひろば・先生お役立ちサイト <https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/index.html>